

オレオサイエンス (英記: Oleoscience) 投稿規定

(平成 12 年 4 月 1 日制定)

(平成 29 年 1 月 1 日改訂)

オレオサイエンス (以下本誌) は、油脂、油脂製品、界面活性剤、石油製品、脂質ならびに脂質に関する科学と技術、および会員相互の交流に関する情報を扱う。

1 投稿資格

投稿者 (代表者) は公益社団法人日本油化学会 (以下本会) の会員 (正会員、学生会員または法人会員) でなければならない。ただし、編集委員会が認めた場合はこの限りでない。

2 著作権

本誌に掲載されたものの著作権は本会に帰属する。

3 原稿の種類

3・1 原稿の種類

本誌の原稿は、投稿原稿と依頼原稿に分類される。

3・2 投稿原稿

編集委員会で企画されたものとは別に、執筆者自ら投稿したもので、編集委員会の判断により掲載区分を変更することがあり、また、内容によっては掲載されない場合もある。

3・2・1 総説: 専門的知識に基づき、一つのテーマに関連する多くの研究論文 (執筆者自身の研究成果を含む) を、総括、解説、および評価したもの。

3・2・2 若手の会ニュース: 若手の会会員のためのコーナーで、若手の会の幹事の執筆によるもの。

3・2・3 読者の広場: 会員により投稿された以下の内容の原稿。

(1) 提言: 本会への提言。

(2) 会員のひろば: 随筆、学会見聞記、海外レポートなど、内容は自由。また、文章に添えて、スナップ写真などを掲載できる。

(3) Q&A: 投稿された油脂、食品、界面活性剤、医薬品、化粧品、および関連領域での疑問や質問に対して、専門家が回答するもの。

(4) 求人 & 求職: 求人および求職に関するもの。

(5) 学会情報: 学術集会、研究会、講演会、国際会議、関連学会などの情報。

(6) その他: 編集委員会が必要と認めるニュースや情報。

3・2・4 油脂関連情報: オレオサイエンスに関わる内容の新規情報を記載したもの。

3・2・5 資料: 広く周知させ、記録に残す必要があ

る本会関連領域の資料や報告。

3・2・6 学会活動 (会告): 本会の活動に関する事務局、理事会、支部、委員会、専門部会、若手の会、研究会などのお知らせや報告。

3・3 依頼原稿

依頼原稿は、編集企画に基づいて編集委員会が依頼したもの。

3・3・1 総説: 編集委員会で決定した一つのテーマに関連する多くの研究論文 (執筆者自身の研究成果を含む) を、専門的知識に基づき、総括、解説、および評価したもの。

3・3・2 講座、講義: オレオサイエンスに関する初心者を対象とした教養・教育的色彩の濃い入門講座や、かなり専門的知識を必要とする研究者を対象とした先端講座。

3・3・3 トピックス: 最近の話題やトピックスを選び、やさしく書かれた解説、または、総説に準じたミニレビュー。

3・3・4 海外文献紹介: 海外の関連する学術誌から主要な論文を抄録として紹介。

3・3・5 油脂関連情報 (抄録): 関連学協会の情報誌等から主要な記事を紹介。

3・3・6 新聞ニュース: 本会の研究領域に関連する最新の新聞記事を紹介。

3・3・7 学会活動 (会務、主催報告、学会報告): 本会の活動に係わる事務局、理事会、支部、委員会、専門部会の報告に関するもの。

3・3・8 その他: 編集委員会が必要と認めたもの。

4 投稿料

投稿は無料とする。制限ページを越える掲載、カラー印刷等を希望する場合は著者の実費負担とすることがある。

5 原稿の作成

原稿は「投稿規定」および「原稿作成の手引き」に従って作成し、記録媒体に準備する。この記録媒体は電子メールに添付文書として、もしくは郵送等により送付できるようにする。

6 原稿の送付

原稿は下記の住所もしくは電子メールアドレス宛てに送付する。

〒 103-0027 東京都中央区日本橋 3-13-11
油脂工業会館
公益社団法人日本油化学会
オレオサイエンス編集委員会
E-mail : y-tanaka@jocs-office.or.jp

7 原稿の採否

7・1 原稿は編集委員会が本誌への掲載の可否を決定する。

7・2 原稿の受付日は本会に到着した日とし、掲載の決定した日を受理日とする。

7・3 編集委員会は原稿の内容に訂正を求めることがある。訂正を求められた原稿が、50日を経て再提出されない場合は、原則として取り下げたものとする。

7・4 編集委員会は掲載が認められた原稿について、字句の訂正を行うことがある。

7・5 投稿された原稿は原則として返却しない。返却を希望する場合は、投稿時に申し出るものとする。

8 著者校正

著者校正は編集委員会が必要と認めるものについて1回行う。原則として、到着後より3日以内に返送することとし、遅れた場合はそのまま印刷することがある。また、印刷上の誤り以外の字句の修正、および原稿になかった字句の挿入、図版の修正は原則として認めない（図を修正する場合は実費を請求する）。

9 別刷

別刷を希望する場合は、著者校正を返送する際に50部単位で申し込む。それ以降の申し込みには応じないことがある。料金は別に定める。

10 雑誌発行後の訂正

印刷上の誤りについては、著者の申し出により編集委員会が掲載する。原則としてそれ以外の訂正には応じない。ただし、編集委員会が必要と認める訂正は、著者の実費負担で掲載する。

オレオサイエンス原稿作成の手引き

原稿の様式および作成は次のとおりとする。

1 タイトルページ

原稿の1枚目は表紙とし、原稿の題目、著者名、所属機関名、郵便番号、住所、電話番号、Fax番号および連絡者名とその連絡先（E-mailアドレス等）を日本語および英文で記入する。

2 総説原稿の書き方

2・1 原稿は、表紙、英文および日本語による要旨、本文（図・表を含む）、文献、および著者の顔写真（3×4cm）で構成される。

2・2 原則として、原稿は、本文（図・表・文献を含む）は11,000字（刷り上り6頁）以内とする（図・表は原則として1点を400字としてカウントする）。

2・3 英文による要旨は200語以下で作成し、英語のキーワードを4～5語付ける。日本語による要旨は英文のサイズに準拠して作成する。

2・4 原稿の本文、要旨は、原則としてMS-WORDを用い、A4縦長で横書きで作成する。

2・5 本文の区分けは原則としてポイントシステムとし、1, 1・1, 1・1・1のように大見出し、中見出し、小見出しを付ける。

2・6 本文に添付する図・表は、MS-Word, EXCEL, PowerPoint等で作成する。図はそのまま縮小して複写印刷できるように鮮明に描く。図の表題と説明

は原則として英文で書き、Figure Captionsとして本文の後に別紙で添付する。表の表題も英文とする。ただし、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。また、同一のデータを図と表で重複することはできない。

2・7 文章は簡潔に、常用漢字と現代仮名遣いを用いて書く。外国語（単語、人名、地名、会社名など）は原語またはカタカナを用い、大文字は固有名詞の頭文字に限る。

2・8 略号を用いる場合は、初出の際（ ）にその略号を示す。

2・9 本文中の字句に注を加える場合は、その右肩に注1)のように上付き記号を付け、原則としてその原稿用紙の最下行に注1)と書き、本文との間に線を入れる。注の番号は通し番号とする。

2・10 文中で図と表の説明をする場合は、Fig. 1, Table 1, また文の最後に付けるときは (Fig. 1), (Table 1) のように記入する。図・表は、論文中に1つしかない場合でも Fig. 1, Table 1 のように表示する。

2・11 用語は文部省学術用語集（南江堂最新版）、および本学会（用語小委員会）の推奨する学術用語を用い、記号、符号、数式等は国際的に慣用されたもの、単位は原則として \approx を用いる。生物の学名、遺伝子名等の表記は、国際命名規則等にしたがう。

3 その他の原稿の書き方

3・1 原則として要旨は付けない。ただし、必要に応

じ日本語による要旨を添付することができる。

3・2 「Q&A」, 「求人・求職」, 「学会情報」は短く簡潔に書くものとする。

3・3 その他は「2 総説原稿の書き方」に準ずるものとする。

4 文献

4・1 文献は引用個所に上付きの番号を付して明記する。

4・2 引用文献の略し方は、Chemical Abstractsに準ずる。

4・3 論文を引用する場合には、次の順で執筆する。

著者名, 雑誌名 (和文誌以外はイタリック), 巻 (ボールド), ページ (始 - 終), (年号)。

(引用例)

- 1) Sakai, T.; Sakai, H.; Abe, M.; Kamogawa, K. *Oleosience* **1**, 33-46 (2001).
- 2) 吉本敬太郎, 化学と工業, **55**, 582 (2002).

- 3) 日本油化学協会編, 第四版 油化学便覧, 丸善, p.132 (2002).
- 4) Abe, M.; Ogino, K.; Yamaguchi, H. *Solubilization in Surfactant Aggregates* (Christian, S. D.; Scamehorn, J. F. eds.), Marcel Dekker, New York, pp.333-363 (1995). (著者と編者が異なり, 単行本の中のある章の部分を引用する場合)
- 5) Takizawa, Y.; Abe, M. *Mixed Surfactant Systems*, Marcel Dekker, New York (1998). (著者と編者が同じで, 単行本のすべてを対象として引用する場合)
- 6) 菅野道廣, 油脂の栄養と疾病, 原一郎監修, 島崎弘幸, 町田芳章 編, 幸書房, pp.150-185 (1990).
- 7) 近藤行成, 伊沢禎二, 好野則夫, 第38回油化学討論会・講演要旨集, 名古屋, p.22 (1999).
- 8) 大竹勝人, 阿部正彦, 特願2000-313599 (2000).
- 9) 木川仁, 高木優, 特開平10-251674 (1998).
- 10) Kigawa, H.; Takagi, S. *US Pat.* 5798434 (1998).
- 11) Mammalian Reproductive Genetics [Internet]. Seattle, WA: University of Washington. <http://mrg.genetics.washington.edu>. Accessed 12 January 2012.